

2026 年度 第 2 回運営推進会議

2026 年 7 月 13 日（月）
地域密着型介護老人福祉施設
越谷なごみの郷
C 館 多目的室

運営推進会議の趣旨

I. 運営推進会議の目的

1. 事業所運営の透明性の確保
2. サービスの質の確保
3. 事業所による「囲い込み」の防止
4. 地域との連携の確保

II. 地域密着型サービスの役割

- ① 本人本位の支援
- ② 継続的な支援
- ③ 地域で暮らし続けることの支援
- ④ 地域との支えあい等を理念とする地域密着型サービスは、入居者・利用者のより良い暮らしを着眼点に本人と地域との関係を断ち切らない支援

上記の役割を担うため、事業所と地域との良好な関係を築き、事業所が提供するサービスが、住民ニーズに即した価値のある地域資源として機能していく必要がある。利用者がどのような暮らしを望み、これからサービスを利用するかもしれない住民が何を期待しているのかを知らなければならない。

運営推進会議は、事業所と地域との関係をつなぐ一つの手段であり、地域密着型サービスを‘事業所と地域住民とが一緒に育てていくことを目的に行っていく。

1. 介護老人福祉施設

【運営状況報告】

● 介護老人福祉施設 5月11日～7月12日までの入居・退居状況

入居者	退居者	ショートステイ	在籍者
0名	0名	定員9名	29名

● 平均年齢と平均介護度

平均年齢	平均介護度
89.2歳	3.7

● 人員体制 人員配置基準(3:1)

入退職者・異動職員	地域密着型施設の職員数	現在夜勤可能職員数 夜勤専従
入職者=1名 退職・異動者=0名	23名(前回比 0名) 常勤換算数:16.6 配置基準3:1割合(2.3:1)	夜勤可能職員数11名(4～5回) 夜勤専従2名(9回～10回) 夜勤配置2人配置

● 教育・研修等

- ・法令に沿った研修を実施予定

● 活動状況・予定

活動状況	・5月12日 いちご狩り ・5月15日 フルーツサンド作り ・6月4日 カレーライス作り ・6月17日 いなり寿司作り ・7月9日 カレーライス作り ・壁飾り制作毎月実施
ユニット会議 リーダー会議	・5月14日 ユニット会議(1階) ・5月25日 ユニット会議(2階) ・5月27日 リーダー会議、サービス担当者会議 ・6月10日 ユニット会議(2階) ・6月12日 ユニット会議(1階) ・6月24日 リーダー会議、サービス担当者会議
研修	・5月:緊急時対応研修 ・6月:身体拘束委員会研修 ・7月:褥瘡防止委員会研修

●事故・苦情の発生

種別	件数	内 容
転倒	2 件	① 5 月 24 日（日） 人感センサーが鳴った為、訪室するとベッド脇の床に仰向けの状態で倒れているのを発見する。人感センサーが鳴った為訪室するとベッド脇の床に仰向けの状態で倒れているのを発見する。車椅子はブレーキが片側外されベッド脇から窓側へ少し動いていた。また L 字柵のロックも外されていた。昨日は昨夜より気分高揚状態であり、そのような状態の時は普段と違い言葉が激しくなったり、1 人で立ち上がりや動き出される行動が見られる。その為、車椅子は 1 人で移乗しても大丈夫のようにベッド脇に付け、人感センサーを設置していた。AU から BU の居室に向かう際に転倒の音は聞こえなかった。 ベッドの高さは低床、マットレス対応としている。センサーは継続。 ② 6 月 8 日（月） 「おーい」と叫び声が何度も聞こえた為訪室するとベッドの下に座って、ストマーがついておらず、便だらけの主を発見する。L 字柵が固定されていなかった。外れないようにレバー式からボタン式の L 字柵へ変更。
異食	0 件	
転落	0 件	
薬	4 件	① 5 月 13 日（水） 眠前薬に痛み止め（カロナール）は内服していないが、ポーチにセットされていた。ご本人が今は飲みたくないとの事で、1 時にスライドして飲んだことにより発覚。5/8～5/14 まで飲む予定でないカロナールが眠前にセットされており 9 日と 10 日以外は眠前に内服してしまった。9 日、10 日に関しては 1 時の通常飲む時間にスライドして内服していた。もともと 1 時の内服は希ご本人の希望されるときに飲んでいた（屯服薬）。 ② 5 月 23 日（土）3 名 14 時 30 分頃 BU の薬ポーチが昼の薬入れ BOX に残ったままになっているのを発見する。12 時 BU には、他館のヘルプの職員が入っていた。他館の職員が来た際は隣の AU の職員が 2 フロア分の薬を行うことになっていたが、普段の流れで AU の薬だけ行なってしまう BU の薬をわすれてしまっていた。AU の薬は休憩に入る職員から受け取り、BU の薬はスタッフ室の薬入れに入れっぱなしになっていた。ヘルプで来てくれる方の中には薬をやっている方もいて分からなくなっていた。ヘルプ職員には服薬介助を依頼しないこととしました。
外傷	1 件	① 6 月 15 日（月） 入浴の際に洋服を脱ぐと左胸下に内出血を発見する。・移乗方法の統一を行う。トイレ誘導の方法を変更する。 （今までは 1 人の職員が抱え、もう 1 名の職員がズボンを下していた） 一度トイレの便座に座って頂き、そこで再度立って頂きズボンを下し、圧迫の

		時間を短くする。アームレストにあたる部分にクッションを使用して対応する。 ② 7月5日（日） 右胸と右腕に内出血を発見する。もともと7月1日の回診時に血腫が出来ていると報告があった（6月30日CT撮影）。移乗時に圧がかかってしまった事による物ものや血圧計による圧迫によるものが考えられる、移乗方法の統一を行った。
その他	1件	① 6月20日（土） 夜勤者より朝のオムツ交換時、左下肢に熱感と腫れがあるのを発見。 クッションをあてる際、足の向きが変になった可能性あり。 車椅子での移乗時にフットレストから足が落ちてしまう可能性があった。 移乗時、車椅子に移った際に左足が車椅子の奥に入った状態になることがある。 左足の拘縮が強くフットレストから足が落ちてしまった状態で車椅子を押し足を巻き込んだ可能性がある。体交時、足の向きの確認をする。 フットレストから落ちないように固定。移動する時に足が落ちていないか確認。 移乗の時、足が奥に入らないようにする。移乗方法をPTにきく。 足が必ず落ちないように固定する用具の用意。 ② 6月27日（土） 離床介助行うために主の居室に伺うとうつ伏せに床に倒れている主を発見する。 ベッドの下についているタイヤの上に顔をのせていた。 ・本人が手術後自分で起き上がる事がなくなっていた為、以前は使用していたセンサーを使用していなかった。 ・ベッドが低床になっており立ち上がりにくかったのではないかと。 ・立ち上がった際に、L字柵はあったが両手でつかむところはなかった。 ・手術前は頻回にトイレに行っていた為、リビングに近い居室にしていたが、最近では全く起き上がる様子がなかった為、リビングから遠い居室にしていた。 ・事故後娘様より、自身で動くことは術後ないが足が下りていることはあったと聞いた、聞き取りが不足していた。 ・次回利用から、居室をフロアの近くにする。（A101室 A102室） ・センサーを再度利用する。 ・タッチアップの使用 ・マットレス使用 ・立ち上がりやすいベッドの高さを決める。

2026年度の目標

- ① 施設の魅力発信や、働きやすい環境作りの為、職員間コミュニケーション促進・環境整備・業務改善等を毎月1件以上行う。
- ② 職員の質（チーム力）の向上を図る為、介護計画書への提案・部署間連携強化の取り組み・研修等への参加を年間10件以上行う（前期5件・後期5件）
- ③ 安定した施設運営の為、光熱費削減の為の提案や事故予防に対するヒヤリハット提出・実行する（年間30件以上 前期：15件 後期：15件）

運営推進会議の会議録

会議名称 : 2026年度 第2回運営推進会議
事業所名 : 地域密着型介護老人福祉施設 越谷なごみの郷
サービス種類 : 地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護
会議開催日時 : 2026年7月13日 (月) 10時00分 ~ 10時30分
会議開催場所 : 越谷なごみの郷

《運営推進会議出席者》

入居者	0名
入居者家族	0名
地域住民の代表	0名
知見を有する者	0名
地域包括支援センター職員	1名
事業者	4名

《議 題》

■ 2026年5月11日～2026年7月12日までの活動状況の報告

《運営報告・活動状況等の報告》

○資料参照

《ご家族や参加者からの要望、助言、意見等》

山田にて、運営推進会議の趣旨の説明

山田にて、第2回運営会議推進会議録資料に沿って、運営状況、平均年齢、平均介護度、人員体制、教育・研修、活動状況・予定報告
今年度の目標についても報告

参加者、説明に対し理解し了承する。

《次回の会議》

○ 次回議題

- ・ 2026年7月13日～2026年9月13日までの活動、状況報告
- ・ 運営等についての意見交換
- ・ 地域密着型サービスの主旨に基づいたサービス提供ができているかを基本に、地域活動を含め協議していく。

○ 次回開催月日 2026年9月14日 (月)

○ 次回開催場所 越谷なごみの郷